



「IoT」

頭取 大道 良夫

最近、「IoT」(インターネット・オブ・シングス)が新しい技術としてメディアに取り上げられています。「モノのインターネット」との意味で、「モノとモノを直接インターネットでつなぐ技術」のことで、最近では「モノ、ヒト、サービスの全てを包括したインターネット化による価値創造」と、その考えは拡大しています。

『日本再興戦略』改訂2015―未来への投資・生産性革命』が6月30日に閣議決定されました。同戦略では、現在について「ビジネスや社会の在り方を根底から揺るがす『第四次産業革命』とも呼ぶべき大変革が着実に進みつつある」「IoT・ビッグデータ・人工知能時代の到来である」としています。そのうえで、「この事態に手をこまねいては、これまで国際競争を戦ってきた企業や産業が短期間のうちに競争力を失う事態や、高い付加価値を生んできた熟練人材の知識・技能があつという間に陳腐化する事態が現実のものとなる恐れすらある」と指摘。その一方で、「思い切つて新たな事業に取り組みもうとする事業者には絶好のチャンス」と主張しています。

今回の戦略改訂の背景には、工業のデジタル化で製造業の様相を根本的に変えて製造コストの大幅削減を目指すドイツや、「GE」(ゼネラルエレクトリック社)が航空機や電車、ガスタービンなどの産業機器の運行や部品の状態などをインター

ネットを介して総合管理する米国での先駆的動きがあります。

「シーテック ジャパン 2015」が10月7日から4日間、千葉・幕張メッセで開催され、国内外から531、滋賀からは4社・団体が参加。「もはやステージは変わった」と実感させる画期的な技術が展示・披露され、「IoT」や「IoE」(インターネット・オブ・エブリシング)あらゆるモノが接続されたインターネット)の流れは確実に大きくなっています。私ども金融機関もぼんやりしてはられません。

進化する人工知能やロボットが近い将来、仕事をどんどんこなす一方、マンパワーは人手を要するお客さまとの対面業務に集中するようになると思われます。そのようななかでは、新しいIT(情報技術)を導入してお客さまのニーズにますます迅速・的確にお応えするとともに、「人ならではのサービスをどのように充実させるか、が今後の大きな課題と認識しています。

「IoT」の進化は、インターネット利用の重要性を再認識させましたが、それ以上に「マンパワー」「人ならではの」重要性を浮き彫りにしました。働く一人ひとりの「顔」が見える中小企業の方が有利な時代、と言われるのも、このゆえと考えます。

お取引先さまには、「人ならではの」「新しいものを考える力」を発揮していただけるよう、私たちが努力してまいります。